



情報通信政策で君だけの物語を

総務省 情報流通行政局 情報通信政策課 統括補佐

恩賀 一

Hajime Onga

平成 13年 4月 総務省採用
同 郵政企画管理局貯金企画課
平成 14年 4月 滋賀県総務部市町村振興課主事
平成 15年 4月 総務省情報通信政策局総合政策課
平成 16年 4月 同 情報通信政策局衛星放送課企画係長
平成 18年 6月 米国留学(カリフォルニア大学バークレー校、カリフォルニア大学ロサンゼルス校)
平成 20年 7月 内閣官房国家公務員制度改革推進本部事務局 参事官補佐・行政改革推進本部事務局参事官補佐
平成 22年 7月 総務省情報通信国際戦略局情報通信政策課課長補佐
平成 24年 8月 内閣官房情報セキュリティセンター(NISC) 参事官補佐
平成 26年 7月 在タイ日本国大使館一等書記官
平成 29年 9月 現職

「情報通信」の意義

「情報通信」とは何でしょうか。抽象的かつ専門的な用語であるため、馴染みのない方も多いと思います。身近な例として、スマートフォン、インターネットやデジタルテレビといえば、想像できますでしょうか。しかし、これらは時代や社会と共に変わり続ける技術的な手段の一例に過ぎません。

「情」は、心の動き、気持ち、思いやり、ありさま等を意味します。「報」は、知らせ、むくい等です。つまり、私達が内面や外界から感じ、意味づけした抽象的なものが「情報」です。これを「通信」、「通」い合って「信」頼を深める。このように考えると、「情報通信」が人類の誕生と同時に始まったと言われることも理解できると思います。

時代や社会になくはならない普遍のものとして、私達が意識せずに日々行っているもの、それが「情報通信」です。水、土地、森林や鉱物等の限りある天然資源とは異なり、多様な一人一人の人間を通じて、無限に創り出されていく。この多様性、無限性、創造性こそが「情報通信」の意義といえるのではないのでしょうか。

「情報通信政策」の魅力

手振り、言葉、文字、紙、印刷、狼煙、鐘、伝書鳩、飛脚、郵便、通信、放送など「情報通信」には様々な手段があります。私達は、時代や社会の有り様に応じつつ、距離や時間の制約を超えて、情報の手入、共有、発信、蓄積、解析、活用等を可能

とする情報通信技術(ICT)を開発してきました。

私が入省した21世紀の始まりは、インターネットが普及し「IT革命」が流行語大賞となるなど「第3次産業革命」の真っ只中。それから約20年、「第4次産業革命」が到来しています。人間を中心として発展してきた「情報通信」は、IoT、ビッグデータ、ロボット等のイノベーションにより、モノ、カネ、コト、AIまで広がりがつつあります。

「情報通信」は今や、あらゆる活動を繋ぐ神経系となり、私達の安全・安心確保、社会経済の発展、国家の安全保障や危機管理のために不可欠なインフラのインフラです。そして、国家の存続に関わる通信主権を構成すると共に、民主主義を支えています。これを時代や社会に応じて維持・発展させていく。この舵取りこそ、「情報通信政策」の魅力です。

次世代に向けて

「君には新しい戦略をつくってほしい。前例は何もない。自由にやってほしい。」2012年夏、新しい上司から前人未踏の課題を与えられたことを鮮明に覚えています。国内外かまわず駆け巡り、産業界や学界等の有識者を訪問し、関係部局や省庁と議論を交わすこと、1年間。我が国初の「サイバーセキュリティ戦略」が策定されました。

「この国では情報通信分野が今後重要になる。日本側の担当は君しかいない。日本代表として新たなwin-win関係を築いてほしい。」2014年夏、人生で初めて踏み入れるタイ王国でも未曾有の

使命を帯びました。同国にて現地人や日本人等との新たな出会いを重ねること、1年間に1千人以上。3年間で、両国政府間で5つを越える協力覚書が締結されました。

「情報通信政策」が取り組む課題は国内外に遍在し、期待される役割は広がっています。様々な産学民官とのネットワークを構築し、連携を促すイニシアティブ。この政策を担う者にはこの資質や経験が益々求められていくでしょう。一人一人が先駆者となり自分だけの物語を切り拓くチャンスに満ち溢れている情報通信政策。次世代に向けて一緒にいかがですか。



バンコクで開催されたITUテレコム・ワールド2016の様子(筆者(右))

IoT時代におけるサイバーセキュリティ

皆さんは、サイバーセキュリティと聞いて、どのようなイメージを持たれるでしょうか。サイバー空間、インターネットの向こう側の遠くの世界で起きている危険な出来事への対応でしょうか。それとも私たちの日々の生活に影響しかねない身近な出来事に対するリスク管理でしょうか。

あらゆるモノがインターネットにつながり、様々なモノやサービスが提供されて便利になるIoT時代と言われる昨今、サイバー空間での出来事は、日々の生活から切り離せなくなっています。そのため、私が現在取り組んでいるサイバーセキュリティ政策の推進は、私たちの日々の暮らしを守ることにつながる仕事なのです。

あらゆる政策ツールをフル活用

「くらしの中に総務省」のキャッチフレーズの下、情報通信行政を担当する総務省では、そのサイバーセキュリティ政策に今、大きく力を入れていきます。昨年夏にサイバーセキュリティ課を設置して、予算、法制度、税制などのあらゆる政策ツールを総動員して取り組んでおり、私自身もこれまで得てきた業務の知識・経験の全てをフル稼働させて、日々、上司や同僚と議論しながら、少しでも安心して暮らせる社会につながればとの思いで取り組んでいます。

様々なプレイヤーとの連携も欠かせません。特

に、IoTセキュリティの確保については、IoT機器があらゆる分野で使われ、そのリスクは社会への影響が大きいことから、内閣サイバーセキュリティセンターや経済産業省と連携して取り組んでいます。また、すでに利用されているIoT機器のリスクは、すぐに取り組むべき課題であるため、大学の先生や民間企業の人たちと繰り返し議論を行い、昨年春に方針を打ち出し、産学官で連携してIoT機器の脆弱性を調査して解消していく取組を昨年秋に開始することができました。このIoTセキュリティの確保は、国際的にも課題となっている中、我が国がいち早く取組を開始しているため、米国やEUなどからも関心を持たれており、連携した取組の実現に向けて情報共有・意見交換から始めています。

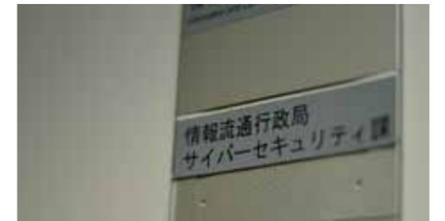
少しでもより良い世の中に

私自身は、入省してからこれまで、情報通信白書の執筆や、放送法の改正による放送持株会社制度の創設、日豪EPAやTPPにおける情報通信分野・郵政分野での国際交渉、地方自治体への補助金を活用したブロードバンド整備など、情報通信行政の様々な角度から、我が国の情報通信環境が向上するための政策に取り組んできました。技術革新のスピードが速いこの情報通信分野では、技術革新による日々の生活の利便性の向上をいかに進めていくかを考えるのと同時に、サイバーセキュリティの確保など技術革新のために生じる

新たな課題を解決していく必要があります。こういった技術革新によって生じることの全体に目を配りながら、行政として何をすべきかの議論には、年齢は関係なく、むしろ若い感性が不可欠といっても過言ではありません。私も入省して間もない頃から、思いっきり議論に参加してきました。この情報通信の将来の可能性と、それを迎える安全・安心の確保、これを私たちと一緒に議論して政策に取り組み、少しでもより良い世の中にしていきたいと思います。熱意ある皆さんと共に仕事ができる日を楽しみにしています。



週末の子どもの時間を楽しむ筆者



総務省 情報流通行政局 サイバーセキュリティ課 課長補佐

山田 隆裕

Takahiro Yamada

平成 16年 4月 総務省採用
同 情報通信政策局総合政策課情報通信経済室
平成 18年 8月 同 情報通信政策局放送政策課
平成 19年 4月 同 総合通信基盤局国際部国際経済課 北米経済係長
平成 20年 7月 内閣官房郵政民営化推進室主査
平成 21年 10月 総務省情報流通行政局郵政行政企画課 地域調査係長
平成 23年 7月 英国留学(ロンドン大学クイーン・メアリー校)
平成 25年 7月 総務省情報流通行政局郵政行政貯金保険課 課長補佐
平成 27年 10月 総務大臣政務官秘書官
平成 28年 8月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部 事業政策課課長補佐
平成 29年 1月 同 情報流通行政局情報流通振興課 情報セキュリティ対策室課長補佐
平成 29年 7月 現職

サイバーセキュリティ政策の最前線にて

